

2022年12月4日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「わたしの家、わたしの教会—すべての多様性を尊重する—」

聖書：イザヤ書56：1～8

56章からの時代背景は、捕囚地バビロンからユダの地へ帰還した直後の出来事として記されている。神殿の再建が成さる中、皆で礼拝を捧げることにあったが、ここに来て不平がでた。帰還してきた者の中に異邦人、宦官がいたことに不満がでた。宦官とは去勢された男性のこと。そのような者と礼拝を捧げることは出来ないというのである。

その仕打ちに異邦人、宦官たちは自らを卑下した（いやしめること）。その状況に神はこう宣言される（3-6節）。異邦人にも宦官にも自ら卑下してはいけなく神は言うのである。宦官に対しては、神は「彼らのために、とこしえの名を与え／息子、娘を持つにまさる記念の名を／わたしの家、わたしの城壁に刻む。その名は決して消し去られることがない」と。「息子、娘を持つにまさる」とは、彼らは去勢された者ゆえに子を持つことは出来ない。しかし神は、「息子、娘を持つにまさる記念の名を」と言うのである。神の慰め、愛が語られている。

「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる」この言葉は、神を礼拝する者はどのような人であっても、すべての民の賛美を礼拝を、神は受けるということ。私たちの教会は、すべての民に開かれているだろうか？この人はOKだけど、この人はどうもと言うことはないか？

近年、「セクシャル・マイノリティ」という言葉がよく聞かれる。性的少数者という意味だが、そこには同性愛者を含み、アルファベットのLGBTQという言葉がある。沖縄県では昨年「性の多様性尊重宣言（美ら島にじいろ宣言）」が成された。那覇市では2015年に「性の多様性を尊重する都市・なは」を宣言されている。那覇市の宣言文「人がどのような性を生きるか、また、誰を愛し・愛さないかは、すべての人が幸福に生きるために生まれながらにして持っている権利、すなわち人権であり、誰もがその多様な生き方を尊重されなければなりません。那覇市は、市民と協働し、性自認及び性的指向など、性に関するあらゆる差別や偏見をなくし、誰もが安心して暮らせる都市をめざして、ここに『性の多様性を尊重する都市・なは』を宣言します。」この宣言は世界的に広がりつつある当然の宣言である。

教会は、この宣言を掲げることが出来るか？私たちの教会も、個々の出会いの中から、ごく自然に、理解が広められる教会でありたい。神は、「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる」と。この神の宣言に、「すべての多様性を尊重する教会」としてのあり方が問われている。聖書に「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。」（ヨハネー 4:9）とある。クリスマスは、まさに「わたしの家、わたしの教会」として「すべての多様性を尊重する」出来事である。（神谷）